

平成 3 年 4 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

黒沢まで汽車が走ったことなど

(その1) 大正6年、浅野セメント株式会社が黒沢1丁目地内の石灰山を買収、大正7年、現東青梅駅付近から石灰石運搬の専用線が敷設されました。(東青梅駅が開設されたには昭和7年であった) 青梅4小の西を通り、青梅ゴルフ倶楽部、給食センター前、天寧寺坂を超える道路に沿って、黒煙を吐きながら汽車が走ったのです。もっとも実際に採掘したのは大正9年8月までで、初年度14,496トン、9年度3,244トンで閉鉱し、大正11年6月には専用線も廃止され、線路敷のみが残りました。

この理由について、当初は成木の梅ヶ平まで延長を期していましたが、石灰石の埋蔵量が予想以上に少なかったためといわれています。ところが、近年の聴取調査によると、浅野セメント株式会社はそこ、現日の出町大久野の勝峯山に目をつけ、買収交渉を行っていたが、交渉が思うように進まない。そこで一計を案じ、勝峯山を断念するように見せかけ交渉を成功させるために黒沢に線路を引いたというのです。今後の調査で正確を期していきたいですが、ありそうなことです。(柳内金三氏の教示による)

(その2) 昭和3年7月8日、青梅～飯能間にバスが開通しました。当時は現在の都道ではなく、狭く曲がりくねった旧道を通りました。因みに、現在の都道は昭和4年12月に完成、道幅も広げられました。近年、再び道路が拡張され、新設のころの名残を留めるのは、富岡3丁目地内の木抓橋と富岡3丁目と小曾木5丁目の境に架かる境沢橋の親柱にその年を刻んでいるだけです。

開通の日に青梅まで乗った経験をもっていた故川鍋角蔵氏の話では、青梅までのバス停は6ヶ所で、停留所以外でも乗る人があれば止まったそうです。米が一升15銭の時代に、バス代は青梅まで30銭、一区間だと5銭だったそうです。

(その3) 昭和10年、岩蔵～箱根ヶ崎間にバスが開通しました。新宿から国分寺を經由し、当時の東村山駅(現武蔵大和駅)まで開通していた多摩湖鉄道株式会社が、青梅～飯能のバスを昭和7年も買収し運行していた武蔵野鉄道(池袋～飯能間)に対抗するために開設したとのことです。その発着場所となっていた湯場橋の近くの山田重義氏家の地内には切符売り場が昭和40年代まで残っていました。

(文責 中西 勲)